

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2371501020		
法人名	株式会社在宅介護センター愛		
事業所名	グループハウス愛		
所在地	名古屋市名東区八前二丁目1820番地 (電話) 052-774-0187		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月2日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年7月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	26 人 常勤 16人, 非常勤 10人, 常勤換算 9.21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000・69,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	96 歳
協力医療機関名	医療法人桂名会 木村病院・松本内科・長久手歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは商業地域にあり、瓦屋根の門と玄関は和式の引き戸になっており、毛筆の大きな木の表札がかかっている。玄関には消毒用ミスト、マスクが置かれ、入居者への配慮が見られた。屋上には芝生が植えられている。入居者と職員が一緒に手入れする野菜、花がありお茶を飲む等、楽しみの場所となっている。各居室の扉はすりガラスで個々にデザインされ、自筆の表札も掛けられ、迷わない工夫がされている。フロアの1角に和室があり、大きな掘り炬燵があり、団欒の場となっている。新聞の読み聞かせ、喫茶店、外食、花見等の楽しみも支援されている。近隣の造園業の方よりホテルの会に招待された。押し花のボランティア等の訪問もあり地域との交流もされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果はスタッフ会議やミーティング、毎月行われる勉強会等で話し合って検討しているが、できることと、できないことがある。地域交流については、夜間に行われる盆踊り等に参加しにくい。家族や本人の意向で、現況を知られたくない方もあり難しい面もある。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回と比べ、記述式だったため、できている所、できていない所が明確になってしっかり自覚できるメリットも感じられて有効だが、時間がかかり多忙な中で大変だった。自己評価を全員で行い、サービスの質の向上に努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>自治会長、民生委員、家族、医師、職員が参加し3カ月に1回開催している。委員の任期は1年ごとに改選され、順次家族も委員になっている。入居者やサービスの実際や外部評価等の報告が行われ、意見交換も行われた。医師から、認知症についての知識について話がされ、会議の出席者に好評だった。運営推進会議での議論を踏まえ今後「介護教室」等の取組みを考慮中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会には声をかけ、近況報告を欠かさないように努め、家族が話しやすいよう当日の勤務者の写真を貼り出している。各ユニットに意見箱を設置している。面会者にお茶を勧めながら、ゆっくりと話ができるように努めている。家族アンケートの結果から回収率も高く、回答内容からも可能な限り、理念に沿った対応がなされていることがうかがえる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>天候、体調を見ながら散歩にでかけ、その時には近隣の方と挨拶を交わすようにしている。外食や近くの喫茶店へ出かけることもある。普段の会話から、入居者の行きたい所を把握し計画を立て、ドライブや足湯、外食などに出かけている。遠出等は家族の参加を呼びかけている。最近では近隣の造園業の方からホテルの会に招待され参加し喜ばれた。押し花のボランティア等の訪問があり、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念は「安全・安楽・安心」で職員が考え作られたものである。形だけの理念ではなく、これを基本として、職員全員が理解し、同じ思いで介護に携わっている。また、基本理念をもとに7項目の理念を掲げ、その中には「地域に開かれたグループハウスを目指し、地域の人とのつながりふれあいを大切にします」との文面がある。</p>		
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>「安全・安楽・安心」をモットーに7項目を具体的に掲げスタッフルームに掲示されている。職員は出勤時に確認している。また、日々の申し送りや会議の際にも状況に応じて話されている。</p>		
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入しており、地域の清掃に参加したり、ホーム行事のチラシを配布し、参加を呼びかけ地元の人々の交流に努めている。マンションが多く、商業地域なので参加は難しいが、こども達の参加はあった。散歩の時に近所の方と挨拶を交わし、交流は図られている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。人により3~4時間から数日を要した人もいる。忙しい中で時間を見つけ頑張った。前と比較して問題点がはっきりしたり、良い点も発見したとの意見も聞かれた。評価の機会を通して出てきた課題については、職員と改善に向けた話し合いがされている。できる事から改善に向けて取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、自治会長、民生委員、家族、医師、職員が参加し、3カ月に1回開催されている。委員の任期は1年ごとに改選され、順次家族の方に委員になってもらっている。経過報告、議題に続いて意見交換が行われた。地域や家族の意見、質問に対しては会議の場で回答している。参加していない職員にも分かるよう、記録が読めるようになっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には市担当者は参加していないが、成年後見制度を利用している入居者もいるため、相談などを電話や訪問により担当者との連絡を図っている。また、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）グループホーム分科会でも担当者との交流を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に入居者の状況や様子について説明し、日常の写真を見てもらっている。また、出納帳についても確認してもらっている。適宜お知らせ文書を家族へ送付している。その他に来訪以外にも電話連絡等を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱がホールに設置されているが、家族は直接管理者、職員に話をしている。必要時に家族に来てもらっており、運営推進会議にも家族の参加がある。ホームの行事に家族の参加を呼びかけており、来訪時には家族から声をかけやすいように、その日の担当者の顔写真がホールに掲示されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニットで職員は固定されているが、職員が入居者を連れて各ユニット間を行き来している。職員の個人面談を年1回実施している。職員離職の予防策として、日々管理者からの声かけや、職員同士の話し合いは行われている。希望休、休憩が取れるように配慮されている。スタッフルームに職員専用のシャワールームが用意されている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回勉強会をしており、議題は職員から提案される。また、ホームとしても年間計画を立て、実施されている。内部、外部研修を通じスキルアップの機会が確保されている。職員は自分自身のスキルアップのため、毎年、介護福祉士、介護支援専門員等の試験に挑戦している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名介研の分科会の幹事として、施設長が参加し、同業者との交流作りに努めている。福祉就職フェアには、管理者と職員が出席し、他業者のパンフレット等情報の収集を行っているが、交流までには至っていない。5月から管理者同士の交流を始めている。次第に職種同士の交流も進めたいと考えている。		地域の同業者との交流は希望していても、現実には難しいこともあるが、実現に向けた取り組みを期待したい。交流により、双方理念に沿ったプラス効果、より良い資質向上が期待される。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問したり、ホームを見学してもらったりしている。体験入居もできる。入居は急がずに時間をかけて、コミュニケーションを深めるよう努力をし、馴染みの関係ができるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者の関わり合いとしては、人生の先輩として教わる立場で声かけをし、できることからやってもらい職員と一緒に協力しながら行っている。また、入居者同士の関わりや支えあいが深まるように常に見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「入居者本位」の生活を一番に考え、本人からの聞き取り、状況を把握し入居者の「今」を大切にし、口出しせず見守りの支援がされている。入居者の生活歴、言動、表情から汲み取るようにしているが、困難な場合は家族に相談や確認をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前に訪問し、家族や本人に日々の生活や趣味、生活歴の聞き取りを行い、介護計画が作成される。入居者には担当職員が決められており、チームの意見や入居者、家族の希望を取り入れ作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回カンファレンスを行っており、入居者の状態について話し合いがされ、情報の共有を図っている。介護計画については3カ月毎に見直しを実施しており、状況に変化があった場合は、随時見直している。面会時に家族に確認してもらい、計画書にサインしてもらっている。職員には、追加計画で申し送りがされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所内には訪問看護、訪問介護（介護サービス費）居宅介護支援（ケアマネジメント）の3部門があり、必要に応じてそれぞれの機能を活かして支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者や家族の希望により、かかりつけ医への受診は可能である。協力医療機関の定期的な往診があり、緊急時には相談、指示が受けられホームの看護師が処置を行う。また、入院中の入居者については、医療機関と連絡を取り、退院後のケアについて担当医から説明を受け、適した支援ができるよう情報収集を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応に関わる指針」を入居時に家族に説明し同意書をもっている。入居後も状況に応じて、家族とは機会があるごとに説明している。職員には、家族で検討され理解されている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>玄関に個人情報の取り扱いについての文書が掲示されており、家族には入居時に説明している。職員には、入社時の新人研修の中に織り込まれている。日々のケアにあたっては、言葉かけや対応には充分注意を払うように心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の生活歴を活かして園芸、食事の準備、後片付け、洗濯物干し(取り入れ)雑巾縫い、清掃など支援している。身体機能維持向上のために体操、散歩が行われている。コースも2~3種類用意されている。基本的に1日の流れは決まっているが、朝寝坊したり、家族とおしゃべりしたり入居者本位の支援がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れつくられており、旬の物を使用し野菜を中心とした食事づくりとなっている。朝食は入居者の希望により、パン食と米食が用意されている。一人ひとりの嗜好や季節感のある食事づくりに工夫されている。夜、晩酌を楽しみにしている入居者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて毎日入浴している。入居者全員が入浴するため、朝10時より準備され、入浴時間は入居者の希望に合わせている。脱衣室に籐の椅子があり、湯上りにゆっくり休むことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1年を通して、行事の計画がある。初詣、節分会、ひな祭り、花見の会など四季折々に予定されている。屋上には芝生が植えられている。周りには花が植えられ、手入れが行き届いている。花の手入れは入居者も参加している。芝生の上にテーブルを置き、お茶を飲んだり、楽しみの場所となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段の会話から、入居者の行きたい所を把握し計画に沿い、足湯、外出などに出かけている。遠出等は家族の参加を呼びかけている。外出をしたり、近くの喫茶店へ行くこともある。天候、体調を見ながら、できるだけ行うよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前には、市道があり車の量も多いことから、安全のため玄関は終日施錠している。自室については、自分で中から鍵をかけられるようになっている。		入居者の個々の立場に立って鍵をかけずに安全に過ごされる工夫を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安全対策委員会を設けており、防災訓練の年間計画も立てられている。定期的に消火訓練（通報、初期消火、避難誘導）等を行っている。居室には熱感知器、リビングには火災報知器が設置されている。非常用飲料水は用意されている。防災用のために入浴後のお湯を残している。		食品等の備蓄について委員会を立ち上げる準備をしている。災害対策として、現入居者の生活に関わることも含め検討を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に注意し肥満にならないように、摂取量のチェックを行い、体重は1週間に1度測定される。水分は1日1リットル以上を目安にし、入居者の顔を見た時に進めている。管理栄養士を招いて、高齢者の食事についての勉強会が予定されている。現在、食事のサンプルを写真に撮り、実際に即した勉強になるよう資料作りを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はよく清掃されており、清潔感がある。入居者に役割（洗面所を磨く、手すり拭き等）を持ってもらい、できる事は一緒に行っている。リビングには花が飾られ、BGMが流れている廊下に籐の椅子があり、気のあった入居者同士のくつろぐ場所となっている。外出時や日常の入居者の写真や作品も掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、仏壇、使い慣れた家具等が持ち込まれており、居室は自由に飾り付けをしてもらっている。日差しが強い時はレースのカーテンで調節をし、気温が高い時はエアコンで調節し職員が管理をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。